

KISO

機 巢

Vol.32

目 次

機械工学科の現状について

総会の案内

OB シリーズ
故郷で活躍する同窓生

9M 同窓会

知的財産権について

北海道旅行（2）

癒しの空間 酸素ボックス

MECAD ゴルフコンペ

編 集 後 記



機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

今回は岐阜高専機械工学科でがんばっている女子学生2名を紹介します。

【ロボットアイデア甲子園】

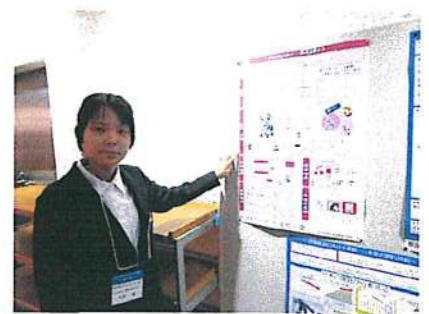
1年生の太田一葉さんは昨年の2024年12月7日に東京の機械振興会館でおこなわれた2024ロボットアイデア甲子園全国大会に出場し特別協賛企業賞を受賞しました。このコンテストは産業用ロボットの新しい使い方のアイデアを競うコンテストで、日本ロボットシステムインテグレータ協会が主催しています。太田さんは約80名が参加した地区大会である大垣大会で最優秀賞を受賞し、更に全国大会に参加した25名で行われる準決勝も勝ち抜き決勝に進みました。部活はロボット研究会に所属し、いまは来年度の高専GCON (GIRLS SDGs×Technology Contest) に向けて準備しています。



大垣大会での授賞式



全国大会での発表の様子



ポスターの前

【関市あいせきでのロボット研究所】

5年生のキム (Ly Kimhiek)さんはカンボジアからの留学生です。東京で1年間日本語の勉強をして、岐阜高専機械工学科3年次に編入学し、今年で日本4年目になります。元々ロボットのことを勉強したいということで、3、4年次は春休みや夏休みの長期休暇を使ってレゴを使ったロボット教室に参加したり、ロボットやAI、画像処理の勉強をしてロボットシステムの開発をしたりしました。5年次からは関市にある古民家あいせきでロボット研究所を開き、自ら作ったロボット教材を使って子ども達にロボットを教えています。



レゴロボット教室で子ども達に囲まれて



関市あいせきでロボットを教え



開発したロボットシステムをモレラで展示 (左:キムさん、右:太田さん)

太田さんとキムさんは一緒に活動することもあり、キムさんは太田さんの出場する大垣大会に応援に行きました。また、太田さんも関市のロボット研究所を見に行き、来年からは活動を引き継いでくれるそうです。そして、3月には教育工学の研究会で2人とも研究発表をする予定です。

機巢会定期総会のご案内

下記により 2025 年度定期総会を開催いたします
ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせ上ご出席いただけると幸いです。

— 記 —

日時：2025年5月24日（土）12：00～14：30

場所：ダイニングてっぺん

dining-teppen.jp

058-265-6996

岐阜市県町2-8 岐阜キャスルイン 10階

名鉄岐阜駅より徒歩3分

内容：定期総会 12：00～13：00

懇親会 13：00～14：30

お弁当と飲み物（お茶、ビール等）を準備します

会費：無料

以上

高専人会の開催のご案内

2025年3月15日(土) 13時 開場 14時 開会 17時 閉会

会場: Blooming Camp

大阪府大阪市北区大深町 6-38 グラングリーン大阪 北館

JAM BASE 3F

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/corp/profile/>

参加費： 40歳以上 10,000円 30歳～39歳 8,000円

21歳～29歳の社会人 4,000円

現役高専生・大学生 無料

※ 交流会の飲食代を含みます

OB紹介シリーズ

故郷で活躍する同窓生

木戸脇 翔平 (2010年度卒業)

本OB紹介シリーズに登場していただく卒業生を探していたところ、かつて若鮎会の事務局長をやってくれた機械工学科の教授が、「教え子の中に高山市で新しい農業を始めた者がいる。」との情報をくれた。そこで、連絡など取りまとめをやってくれたメルマガ編集委員の増井氏とともに、今回登場いただくOB、木戸脇さんを尋ね、高山市の農場、加工販売場を訪問した。



右から増井さん、木戸脇さん、筆者

―上場メーカーを退社してUターン、家業を継ぐまでの道のりは？

私は、高専卒業後、名古屋大学の物理工学科へ編入学し、同大学の大学院に進学しました。在学中は、半導体のIV属系元素(Si、Ge、Sn)のエピタキシャル成長について研究しておりました。エピタキシャル成長とは、単結晶基板上に、その基板と同じ面方位を持った別の結晶を成長させることで、「木に竹を継ぐ」とも言われます。青色ダイオードで有名な

GaN(窒化ガリウム)も、このエピタキシャル成長により作られています。

2014年、大学院修了後、東京エレクトロンへ就職、山梨工場勤務となりました。当時、会社に6つあったプロジェクトの1つに配属され、ユニバーサル・メモリ(あらゆるメモリを代替するとされる夢のメモリ。その有力候補とされるSTT-MRAM)の製造装置開発を行っておりました。原子層レベルの成膜を何十層にわたり制御する最先端の技術開発を行う職場で、比較的高給ではあったものの、残業時間も月60時間と多く、職場環境も昭和な雰囲気が高い、あまり馴染めるものではありませんでした。

職場のあった山梨県は、果物の一大産地で、ぶどうを始め、桃などの果樹栽培が非常に盛んです。また、明治時代に殖産興業として始めたワインづくりも盛んで、歴史あるワイナリーがいくつもありました。休日になると、会社の同期と共に、自然とワイナリー巡りをするようになっていました。

たまに実家の飛騨高山に帰ると、あれだけあった葡萄畑がないことに気づきました。私の実家は、りんご園を営んでいましたが、祖父が細々と生食ぶどうを育てていました。祖父に理由を尋ねると、「昔は何十件もあったが、豪雪の度に数を減らし、今は数えるほどになってしまった」とのことでした。

温暖化で雪が減った今、これはビジネスチャンスになるかもしれないと思いましたが、ワインは飲んでも、作ったことのない人間が果たして出来るのかと思い、2019年4月、長野県の千曲川ワインアカデミーに通ってみることにしました。はじめに、「ワインづくりは葡萄づくり。ぶどうの出来が、ワインの品質の8~9割を決める」と習いました。ワインづくりに適した土地かを調べるため、GIS(地理情報システム)に気象データをマ

ッピングしたところ、リージョン2（黒ぶどうの栽培に適した土地）ということが判明しました。当初は、「雪で潰すからぶどう栽培なんてやめろ」と反対していた父も、ワインアカデミーで勉強したことや研究結果を共有するうちに段々とその気になってきました。

・・・とはいえ、どんなにつまらない仕事でも、世間的には大企業に勤めるのが成功とされる中、本当にやめてしまっても良いのかと悩み、ワインアカデミーに通い始めて、半年過ぎた頃、一人でフランス旅行に行きました。現地のツアーに参加し、ブルゴーニュでは、ロマネ・コンティの畑やクロ・ド・ヴージョを見学し、アルザスでは斜面の傾斜が60°もあるぶどう畑など、ワインのメッカを視察しました。

28～33歳の5年間は、転職市場で同等に扱われるため、起業のタイミングだと言われていました。「今やらないと後悔する。世の中は、自分が思っている以上に複雑で、世間や上司の言う事が正しいとは限らない。5年間真剣にやってみて、見込みがなければやめれば良い。」という気持ちで、帰国して3日後に会社へ退職届を提出しました。

戻ってきてから感じたことや、想いを聞かせてください

2019年9月に飛騨高山に戻り、「まず何かから手をつけよう・・・。」という感覚でした。構想もあるし、やりたいこともたくさんありますが、まずは足元からということで、ワインアカデミーでの勉強の傍ら、試作用の畑0.3haの開墾と、果樹園の経営状況を把握することにしました。

ところが、これがある意味、一番の難事業でした。良く言えば、昔の農家らしいおおらかな感じ。悪く言えば、テキトーな経営でした。帳簿をみても、何が起きてこの数字が出ているのかさっぱりわからない。当時の税理士は、帳簿をこねくり回し、「経費を増やしました」と一言で、会話にならない。何が利益を生んでいて、どこにコストがかかっているのか、そもそも販売価格の根拠は何か、当たり前前のことが出来ていないことに驚愕しました。

まず税理士に辞めてもらい、会計ソフト freee を導入し、自身で帳簿付けを始めました。すると、稲作が全く利益を生んでいないことがわかりました。

「これは都合がいい・・・」田んぼを果樹園に造成し直しても誰も文句を言わないと思いました。祖父がぶどう栽培していた圃場の周りに、土地を交換・集約し、一気に1.5ha造成する計画を立てました。



木戸脇さんとぶどう畑

さらにワインの勉強などを?

土地を1年かけて集約している間に、ワイナリーに勤めて研修を受けることにしました。たまたまワインアカデミーの講師として来ていた、サントリーワインインターナショナル株式会社の渡邊さん（当時の所長）に尋ねたところ、アカデミー卒業後の2020年5月から12月まで、準社員として研修させていただけることになりました。

サントリーワインインターナショナル（株）は、サントリーのワイン事業全般（輸入業・ワイナリー運営）を取り仕切る会社です。サントリーが所有する、国内で最も有名なワイナリーの一つに、「登美の丘ワイナリー（山梨県甲斐市）」があります。この登美の丘を起点に、点在する圃場を正社員の方と共に管理する仕事をしました。丁度、コロナウィルスが蔓延した時期で、ワイナリーはお客さんの入場を制限していました。昼休みになると、軽トラで富士見テラスに向かい、葡萄畑と富士山を眺めながら、ご飯を

食べるという贅沢を満喫していました（笑）

この他、アカデミー時代に講師として来られていた、ドメーヌ小山田の小山田さんの所で、休日に、収穫・醸造工程を体験させていただきました。サントリーで、大規模なぶどう栽培の仕方を、ドメーヌ小山田さんと、個人のワイナリーがどのように運営されているかを体験し、品種選定や仕立ての方法など、飛騨に合った自身の運営スタイルを模索していきました。

また、2020年7月に、自園のりんごを使ったシードルを県内で初めて販売しました。2019年収穫のりんごを3品種ブレンドしたもので、委託醸造（OEM）で作りました。実際にお酒を販売することで、販売手法や市場がどのように機能しているかなど、実体験に基づいて、事業の方向性を定めることが出来たように思います。

ーこれからの会社に欲しいものは？

仕組みづくりが重要かと思います。バックオフィス強化のために、SaaSのようなソフトウェア（クラウドサービス）を順次導入しています。また、個人事業から、組織的な運営に変化してきたので、2025年3月には法人化を予定しています。

また、別事業でドローンによる水稲防除を行っているのですが、450ha 散布するほど規模拡大したため、町から市レベルの組織形態に変化させる必要が生じてきました。地元の改良組合や農家との付き合い方をより円滑なものにするため、新たなルール・システムづくりを行っています。

事業の成長に合わせて、滞りなく事業拡大できる環境を整備していきたいと思っています。

ーワイン造り、経営への展望は？

2021年より、メインとなる圃場の整備を始めました。バックホー（ショベルカー）を借りてきて、集約した1.5haの田んぼを地下1mまで全面深耕し、水が溜まる要因となる硬盤層を破壊しました。元々、川の中洲で砂地の土地だったため、非常に水捌けの良い、ぶどうに向いた土地に生まれ変わりました。

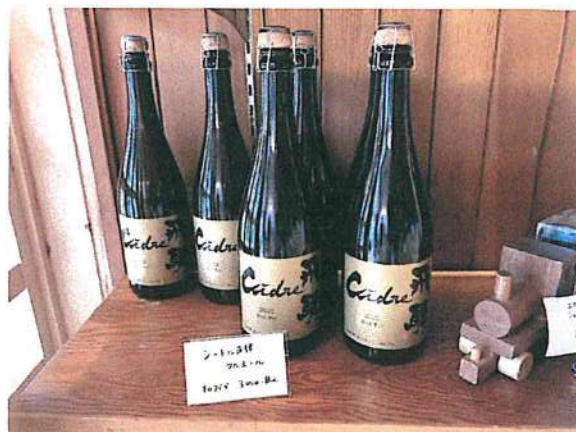
現在、ぶどうの栽培面積は、1.8ha（生食0.3ha、ワイン用1.5ha）に到達しています。ワイナリーの最低醸造量を満たす、6kL（約8000本）を十分生産できる圃場規模です。2023年から収穫が始まり、2024年、270本のワイン専用種（ヴィティス・ヴィニフェラ）による本格赤ワインを飛騨地域で初リリースすることが出来ました。2025年650本、2026年3000本・・・2030年10,000本に到達した時点で、自社のワイナリー建設に着手する予定です。また、地元の木工メーカー・ウイスキーメーカーとコラボし、地元産のミズナラの樽に、当園のワインを詰めて熟成させ、ワインを出した後の樽に、今度はウイスキーを詰めるという樽を循環させて付加価値を高めていくという取り組みも進めています。

さらに、2024年6月より、販売促進のため、店舗・加工場・カフェが一体となった、オーチャードハウスを運営しています。りんごの加工にも力を入れ、ジャムやアップルパイなど、こ



オーチャードハウス

だわりの商品販売をしています。また、店内でくつろげる空間として、カフェを併設し、季節の果物を使ったケーキや、コーヒーも販売しています。誰でも気軽に訪れることのできる環境を整えることで、自然とワインに触れる機会も創出したいと考えています。店舗は、自園の木を使い、飛騨の伝統的な建築（合掌造り、飛騨の蔵、昔の商家）からヒントを得て、家具で有名なオークヴィレッジ（株）と共に作り上げました。木に包まれ、五感で癒される空間となっています。是非一度、見学にお越しください。



店頭の商品：りんごのシードル

－高専時代で役に立ったことは？

材料力学など機械設計の知識が、オーチャードハウスの建築にも活かされたと思います。年の近い設計士さんだったので、お互い遠慮せず、妥協せずに、構造について議論することができました。また、ぶどう棚についても、機械設計の知識を活かし、飛騨に合った構造を設計することができました。

－是非とも、後輩に一言を！

工学をやっている到達した結論は、一つの技術に入れ込むのではなく、全体を統合するシステムとして見ないといけないということです。一つの要素が変わると全体が変化する。これを「創発（そうはつ）」現象といいます。もし僕が今、高専生だったら、どこかの大学に編入学した後、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（SDM）に行くと思います。（何度か集中講義には参加しました。）

機械工学は、3次元で見た時に物事が成り立つように設計しますが、システム・経営はさらに多次元で見て物事が成り立つように考えます。単に、技術的な要素だけでなく、多様な視点で物事の妙（特異点）を捉えられる人材になれば、人生における選択肢が広がると思います。あらゆるエンジニアリングは、特異点を見つけ、それを拡大することが本質です。特異点とは、「論語と算盤」のように、矛盾するように思われる関係性の中から、両方成り立つ最適解を見つけ出すことです。

自分が気付いている感覚（特異点）を大事にして、社会に流されずに生きてほしいと思います。

－これまでと、これから

会社員時代は、とにかく本を読みました。好きだった経済学の本と同じくらい、哲学に関することも勉強した気がします。所詮、人間の知り得る領域は、宇宙全体の何万分の1。ほとんどの事柄に対して、何も知らないし、理解することもできません。この無知に対して、対処する方法は、原理・原則を学ぶことです。2つ本を紹介します。

レイ・ダリオ 「PRINCIPLES」
吉田篤生 「SDM 伝説の講義」

これからも原理・原則を大切にしながら、新しいことに果敢に挑戦していきたいと思えます。遠方から取材いただき、ありがとうございました！

—取材を終えて

筆者の知人（土木工学科の卒業生）で、若くして国家公務員を辞めて、柿・キウイフルーツ農家に転身した者がいるが、アルバイトを使いながら家族経営で軌道に乗せている。木戸脇さんも多くの苦労がこれからも待ち受けていると思うが、是非乗り越えて行ってほしい。そのためには同窓会ネットワーク（機楽会だけでなく若鮎会も）も遠慮なく使ってほしい、立ち向かって行って欲しいと思う。

今回伺ったのは11月半ば、高山とはいえ、降雪前で穏やかな日であったため、筆者の会社の製品（薪ストーブ）がおかれていたのに活躍していなかったのが残念であった。しかし、自社製品を愛用していただいているというのは、メーカーなら誰しも嬉しいものである。益々応援したくなった。

どこかで聞いたかもしれないが、降りかかる理不尽を逆に楽しみ、競争相手は日本人だけではなく海外（インバウンド）にもいることを肝に銘じて欲しい、そんなことを感じた高山での取材だった。

取材協力： 増井 勇一郎（32期）

文責： 中尾 賢治（15期）



木戸脇果樹園

ORCHARD HOUSE KIDOWAKI

〒509-4104 岐阜県高山市国府町今508



9M 同窓会

年明けの1月4日（土）、1976年卒業生の同窓会を開催しました。

毎年お正月に 岐阜駅界隈で催してきました。今年はワシントンホテルプラザ銀座八丁でした。私が九州からこちらに転勤したのが2006年だったので、新型コロナの3年間を除いて15回くらい皆勤していると思います。メンバーはほぼ々決まってきたており、昔のようによくない話で笑いあうのを楽しみにしています。今回は久しぶりの2名を含めて14名が集まりました。

こんなに長く続けられるのは、丸井君のおかげです。進んで幹事役を引き受けて、こまめに卒業生に連絡を取ってくれました。数名の行方不明者を除いて大半の消息を把握しています。こんな人がいないと続かないですね。

昨年から11時からの始まりで、昼食をとって明るいうちに帰れるようにしています。高齢者になるとそんな配慮も必要でしょう。

機楽会では10人以上の同窓会に3年間に1度、1,000円/人の補助金を出しています。写真と参加者名簿をそえて申請書を提出します。今回頂いた補助金は来年の同窓会で利用させていただきます。

9M 熊田進



後ろ左から：石原一宏 蜂須賀保明 谷恵介 西川正典 熊田進 東山明 門脇徹二 伊藤隆司
前列左から：山下保典 瀬古剛 小島靖弘 丸井孝晃 太田和裕 （若井政伯）

知的財産権について

● QRコードについて

いつも利用している「QRコード」。かなり深いので、記事にさせて頂きました。

(普段便利に利活用しているものの歴史に触れると面白い発見がたくさんあります。)

普段何となく「QRコード」という5文字を文面に載せたりしますが、実は(株)デンソーウェーブの登録商標なので、登録商標文の記載が必要なのです。生徒たちに知的財産の話をする時に抜群の教材になります。

※HPにもQRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。という一文が必要です。と記載されており、報道各社など企業によっては2次元コード、2次元バーコードという表現をされる企業もあるようです。

(株)デンソーウェーブの牛嶋様の講演を聞く機会がありましたので、そちらの一部のプレゼンを掲載させていただきます。※ご本人ならびに企業様の許可を頂いております。

株式会社デンソーウェーブ ビジネス開発室 牛嶋 隆雄 様

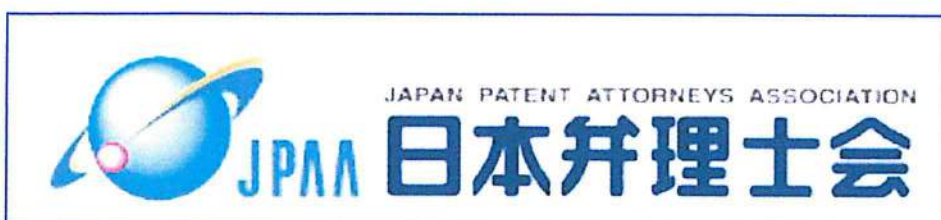
● INPIT (経済産業省・特許庁が所管する独立行政法人 INPIT)

2024年に日本政府は「独立行政法人工業所有権情報・研修館法 (INPIT法)」の一部を改正しました。この改正は、中小企業やスタートアップの知財経営支援を強化することを目的としています。改正により、INPITは中小企業やスタートアップに対するワンストップの知財支援をさらに強化することが期待されています。政府が知財にここまで触れたことはありませんでした。私個人としても、若い人たちのイノベーション向上に期待したいです。

● 日本弁理士会

教員が授業で容易に使用できる知財学習教材も準備され、しかも無料で利用できます。私が学生の時は、知財について触れた記憶がありません。

by 増井勇一郎



北海道旅行 (2)

—富良野散策—

19期 鈴木 宏治

皆さんは「北の国から」を見たことがありますか？

「北の国から」は、1981年10月から1982年3月まで東海テレビ（フジテレビ）で連続ドラマとして放送され、その後、何回もスペシャルドラマが放送されてきました。

「北の国から」は北海道の富良野を舞台に純や蛍そして田中邦衛さんが演じる黒板五郎さんの家族を中心に展開されたドラマです。

そのドラマの中で使用された家が富良野の麓郷の各地にいまでも保存されています。五郎さんの石の家は、富良野の駅から車で25分ぐらいのところにあります。自転車だと、丘を越えて1時間15分ぐらいかかります。

さて、私が五郎さんの家があることを知ったのは、富良野で自転車のツーリングのイベントがあり、五郎さんの石の家の所が、休憩所になっていました。イベント参加者は無料（入場料は500円）で見学できるため、休息がてら懐かしく思い見たのが最初です。石の家も最初の家も思った以上に小さい印象でよくこの中で撮影ができたのか不思議でした。

私が初めてイベントに参加した年は、丁度その年が放送開始から30周年だったこともあり、富良野の街中では、北の国からの30周年を祝っていました。

富良野の駅から石の家に行く途中に、拾ってきた家があります。こちらも中に入るためには、入場料がいりますが、遠目からでも見ることができます。

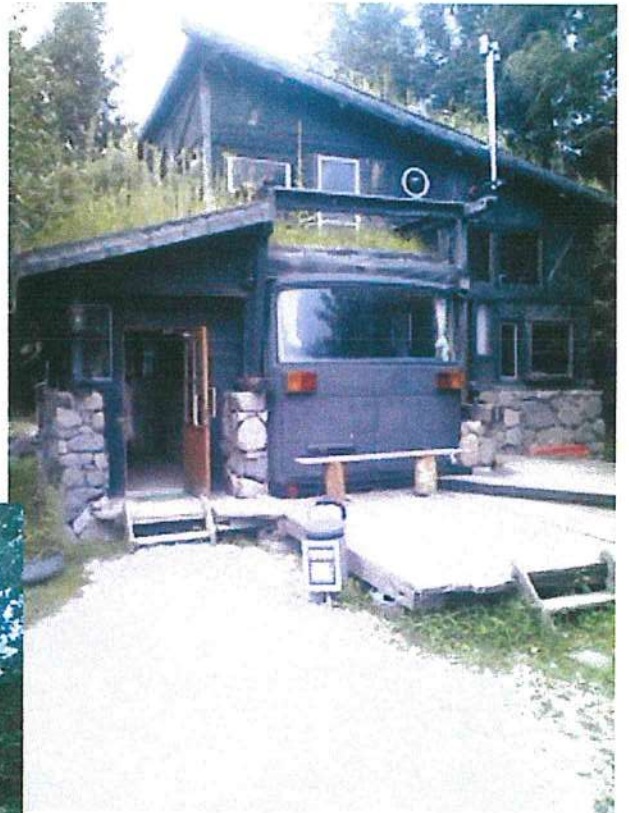
以前は、富良野駅の近くに「北の国からの資料館」がありましたが、こちらは老朽化のため2016年に閉館になったようです。

今では、初夏のラベンダーが有名で多くの観光客が訪れるようになった富良野ですが、たまには、ノスタルジックに浸りながら観光するのも良いのではないのでしょうか。

富良野駅から五郎さんの家まで



最初の家



純と結の家



石の家



癒しの空間 酸素ボックスサロン

最後の贅沢と思います

6期生 太田哲也

70歳になった時にどうしても欲しくなった酸素ボックスを購入しました。高気圧でスポーツ選手が疲労回復に使用する装置です。一人用の寝るタイプもあるのですが、2人では入れる大きなボックスタイプを選びました。1.3気圧なので血管を圧縮して新鮮な酸素を入れ血流を良くします。脳梗塞や血栓は無くなると思います。

購入してちょうど2年が経ちます。ほとんど毎日入っています。肌が艶々になり美容に良いですよ。私の顔写真も掲載しておきます。

高級車1台買えるくらいの値段でしたが、車にはあまり興味が無いので老後の贅沢だと思いましたが、カミさんの反対を押し切って無断で買いました。置く場所は事務所の2階に一部屋借りて設置しました。

二人では入れるタイプなので圧迫感はありません。中でストレッチなどもできます。毎朝早起きして中で瞑想しています。



酸素ボックスは高さ150×96×201cm
高気圧状態を作り圧力がリンパを刺激します。
下の写真は、酸素ボックスの中から見た部屋の風景です。2年間入った私の顔写真。シミも皺もありません。現在72歳。興味のある方はいつでも来てください。



高濃度酸素の摂取メリット

- 疲労回復
- 睡眠の質改善
- 視力回復
- ダイエット効果
- 美肌効果
- 成人病予防
- 老化防止
- 二日酔い防止
- 気力・集中力の増加
- ケガの早期回復・・・など

毎日入ると効果がありますので、1ヶ月1万円で鍵を貸しています。
お試しは無料です。いつでも連絡してください。090-3934-1536 太田

MECAD コンペ



2024年12月18日、MECAD コンペが、参加者14名、4組で開催されました。今回は3M 向井さんのご尽力で、名門の関カントリー倶楽部での開催となりました。競技はダブルペリア方式で行われ、優勝は7M 寺倉さん、準優勝は3E 坂井さんでした。残念ながら私は最下位に沈みましたが、めげずに次はがんばります。



次回開催

3月19日 グリーンヒル関ゴルフクラブ A,M 9:04 IN スタート

多くの皆様の参加をお待ちしております。

参加ご希望の方は m-wakai@m-w-labo.co.jp (若井) までご連絡ください

グリーンヒル関ゴルフ倶楽部

東海北陸自動車道/関 IC 7km

岐阜県関市小迫間東別所 852

TEL:0575-23-1188

年に3~4回開催しています。

OB でなくても友人知人の参加も OK
です。グループで参加してください。

編集後記



4月に10日間地中海クルーズに行きます。同業者の友達からのお誘いです。初めてのヨーロッパです。船の上でワインを飲みながら片言の英語で会話している様子が見えます。もう2か月もDUOLINGOで英会話を勉強中です。

6M 太田哲也



学生時代より始まった花粉症が、さらに悪化しました。大変つらい季節を迎えています。毎年この時期には、北海道や海外に避難するようにしています。今年は南部アフリカに行きます。おいしいコーヒーあれば買ってきます

9M 若井政伯



この冬は2回の積雪がありました。第1波は養老山脈に沿って雪雲が吹き抜け、すねの辺りまで積もりました。駐車場前の道を雪かきしていると お向かいさんとその隣りの家族も合流、1時間ほどで安全な道になりました。

9M 熊田 進



どこかで聞いたかもしれないが、降りかかる理不尽を逆に楽しみ、競争相手は日本人だけではなく海外にもいることを肝に銘じて欲しい。」そんなことをえらそうに言ったのは何年前か。

15M 中尾賢治



2月に地域連携協力会総会とテクノシンポジウムが開催され、令和6年度の活動報告および令和7年度の活動予定が承認されました。私が所属しています、社会人実践カセミナーでは令和7年度の募集が開始しています。社員教育に悩まれている方は一度覗いてみてください。

19M 鈴木宏治



今年は雪が多く、I限の授業に間に合わない学生が続出。バスが来ない、乗れないのはどうしようもないですね（雪で遅刻・欠席した学生には配慮しました）。試験期間にも直撃したので、試験時間割を変更するなど直前の対応に追われました。

24M 山田実



東京に就職で住み始めてから早30年弱になります。今年は雪も積もらず、穏やかな日々が続いています。毎年桜が咲くと雪が降り雪見桜のような風景になる不思議な街です。3月に大阪で行われる高専人会に親子で参加予定です。今度は何事もなく開催されますように。

25M 梅田茂之



人材不足により業務遅延や品質低下が懸念される中、多くの企業様は新工場建設など設備投資をされていますが、人材不足が目下の課題であるというお話を聞きます。対策として人材育成を充実させ、マンパワー150%の働きを実現し、企業成長を支えようされていますが、成長どころか現状維持が限界であるようなイメージを持つ今日この頃です。

32M 増井勇一郎

発行日／2025年3月5日

責任者／飯沼義徳

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343

<http://gifu-nct.com/>